

# 岐阜農林事務所の普及活動状況

平成30年11月30日現在

## 今月の重点活動

### ■担い手育成 青年農業士による出前講座実施

11月9日、岐阜農林高校において、青年農業士2名が園芸科学科2年生40名を対象に、出前講座を行った。

農業高校生に、若手農業経営者の就農動機や経営理念について伝え、農業経営に対する理解を深めることを目的に、岐阜地域青年農業士連絡協議会の協力を得て実施したものである。

各務原市の橋本氏は、非農家で普通科高校出身の自分がなぜ農家になったのかや経営理念について話した。北方町の大野氏は、兼業農家から農業経営者になりたいと、岐阜農林高校、農業大学校へと進んだこと、農業の魅力や苦労話をした。生徒からは、両講師に多数の質問があり、学生の農業への関心が深まる授業となった。

農業普及課は、農業大学校・国際園芸アカデミーへの進学や、就農者への支援制度について情報提供した。次回は、流通科学科生徒を対象とした出前講座を計画しており、引き続き支援を行う。  
(地域支援第一係・山田和彦)



【講話の様子】

## 多様な担い手づくり

### ■GLAMA GLAMAいきいきネットワーク研修会開催

11月20日に、JAぎふ鶴沼支店等において、岐阜県女性農業経営アドバイザーいきいきネットワーク研修会が開催された。

GLAMA会員及び関係機関から89名が参加し、各務原市のにんじんについて、栽培ほ場視察、選果場視察及び各務原キムチ作り体験を通じて学んだ。

農業普及課では、当該研修会を岐阜ブロックが運営するにあたり、開催当日までの準備及び当日の運営について支援を行った。



【研修会の様子】

(園芸産地支援第一係・山田雅幸)

## 売れるブランドづくり

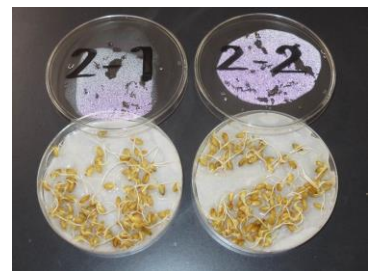
### ■水稻種子 「ハツシモ岐阜SL」生産物審査実施

羽島市水稻種子採種組合では、羽島市小熊、足近、桑原の3地区において「ハツシモ岐阜SL」の種子生産を行っている。

農業普及課では、収穫・乾化作業が終了した種子サンプルを用い、11月7日から生産物審査を開始した。本年の籾は、台風21号及びその後の曇雨天の影響で、穂擦れや穂枯れが一部に見られるものの、現在までの発芽試験では発芽率は確保されている。

今後、生産物審査に合格した種子は、美濃市の種子センターへ搬入・精選された後、平成31年産用種子として使用される。

農業普及課では、生産物審査を通じて今年度の種子生産状況を確認し、次年度以降も良質な種子生産に向けた支援を継続する。  
(地域支援第二係・今井啓司)



【生産物審査】

### ■小麦 タマイズミR調査ほ播種

11月5日、岐阜市木田の水田において、(株)七郷営農が小麦奨励品種決定調査ほの播種作業を行った。「タマイズミR」を調査品種として、蛋白質含量を向上させるため、基肥を通常のセラコートR25からセラコートR2530に変えて実施している。前日の雨のため、ほ場はやや湿っていたものの、ほぼ順調に播種作業を行うことができた。除草剤散布は、日を改めて常用管理機により実施している。



【播種作業の様子】

農業普及課では、「タマイズミR」の奨励品種採用と「タマイズミ」からの品種切替に向けて、調査と現地指導を行い、引き続き支援していく。  
(地域支援第一係・小島康平)

### ■祝だいこん **は種後1カ月の生育調査実施**

11月8日、9日、管内の祝だいこん生産ほ場において、JAぎふと農業普及課が、は種後1カ月の生育調査を実施した。今年のは種は10月12日から始まり、15日までに概ね順調に終了し、出芽は良好であった。出芽後も台風や大雨等の影響がなく、土寄せや間引きが適期に実施でき、生育状況は良好であった。

今後、農業普及課では、12月には種後2カ月の生育調査を実施し、生育状況の把握と結果に基づく栽培技術情報の提供を行い、祝だいこんの高品質生産を支援していく。



【祝だいこんの生育状況】  
(園芸産地支援第一係・高橋幸蔵)

### ■冬にんじん **選果場出荷説明会開催**

各務原市園芸振興会にんじん部会は、11月15日から冬にんじんの出荷を開始し、11月21日にJAぎふ各務原にんじん選果場において、生産者に対する出荷説明会を開催した。

説明会には生産者45名が出席し、全農岐阜中京市場駐在担当者、関係市場から販売情勢、JA選果場担当者から出荷に関する説明をした後、農業普及課からは本年度の気象状況を踏まえた今後の栽培・出荷管理上の注意点等について注意喚起した。

農業普及課では、JAとの連携を通じて、冬にんじんの安定生産・安定出荷に向け、今後も支援を継続する。



【説明会の様子】  
(地域支援第二係・近藤 徹)

### ■いちご **第2回「華かがり」研究会開催**

11月15日、農業技術センターにおいて、第2回「華かがり」研究会が開催された。出荷開始の見込みや生育状況、今後の栽培管理等に関する説明の後、全農岐阜から本年産の販売方針について説明があった。本年産の販売では直販、注文対応の比率を昨年産の34%から50%へ増やし、単価向上を目指す予定である。岐阜地域では5戸の生産者が約70aで栽培を行っており、県内生産面積の約90%を占めている。

農業普及課では、華かがりの最大の売りである「きれいで大きい果実」を安定生産・供給していくため、今後もきめ細かな栽培支援を行っていく。

(園芸産地支援第一係・菊井裕人、三和浩一)



【研究会の様子】

## 住みよい農村づくり

### ■カキ **柿収穫体験実施**

柿産地のPR、消費宣伝を目的として、11月18日には瑞穂市柿振興会、11月23日にはマル糸柿振興会の主催により、柿の収穫体験がそれぞれ開催された。

瑞穂市柿振興会では、主に地元小学生とその家族、地元大学生を、マル糸柿振興会では、愛知県の消費者を参加者としており、合計約140名の参加があり、家族で訪れた子供たちは、赤く色づいた柿の収穫作業や試食を楽しんだ。

農業普及課では毎年、柿産地や柿栽培技術について紹介するなど、収穫体験の開催を支援している。



【収穫体験の様子】  
(園芸産地支援第二係・鷺見彩子、西垣 孝)